



新明倫

鍛英親
錬知愛

高鍋西中学校
学校だより
平成29年5月11日

命の大切さを学ぶ 交通安全教室

4月20日(木)に「交通安全教室」を行いました。交通事故で息子さんを亡くされた笹森義幸さん(国富町)の講話を聞かせていただきました。笹森さんは、平成14年12月に当時中学1年生だった郁也くんが部活動練習後の下校中に交通事故にあい、最愛の息子さんを亡くされました。



講話やDVDの鑑賞を通して、家族を失うことがどれだけ悲痛なことかを改めて知る機会となりました。生の声だからこそ伝わる想いがたくさんありました。「命を大事にして一日一日を大切に生きてほしい」という親の願いが生徒たちにもしっかりと伝わりました。

残念ながら本校でも、登校中に自転車で転倒して負傷した生徒がいます。ぜひ、よそのことではなく各家庭でも、安全な登下校のしかたや交通ルール・マナーなどについて話題にしてほしいと思います。

運転手のみなさんへ (石碑に刻まれた文)

不幸にして、最愛の息子を、交通事故で亡くしました。野球の練習後、坂道を、自転車を押して帰る途中の事故です。

息子の夢は、プロ野球選手になることでした。親バカと思われるでしょうが、確かにセンスはあったと思います。プロ野球選手とまではいかななくても、せめて中学3年までは野球がどれくらい伸びていたか見たかったものです。おそらく郁也のこと、「野球しようや」とか言って、いろいろな人に声をかけて天国でグローブやバットを握っていることでしょう。郁也は、妻が3日かかって産んだ長男です。兄弟の面倒をみたり牛の世話をよくする、家族思いの、そして友達思いの優しい子どもでした。

息子の供養と、こんな悔しい、悲しい思いは、我が子だけでいい、一人でも一件でも悲惨な事故がなくなればという思いでこの碑を建てました。

息子の死を無駄にしないためにも、皆さん、安全運転をよろしくお願いします。

みやざき被害者支援センター「あおぞら～遺族の想い～」より

～生徒の感想から～

- 今日の講話を聞いて、大切な人の命は簡単に絶たれてしまうものだ改めて認識しました。大切な子どもさんを奪われた後の傷は、今もこれからも消えることはないんだと思いました。私たちはまだ車を運転することはないけど、交通ルールに気をつけて、尊い命を大切にしていきたいです。
- 私たちが今こうして生きていられることに改めて感謝して、少しでも事故を減らすことができるように、心配りしていこうと思います。これからも命の大切さを改めて考え、自分の命を大切にしていきたいです。
- 自分も事故に遭わないように、普段から気をつけていきたいです。また、自分の命を大切にしなければいけないと改めて思いました。そして交通事故はあってはならないものだ強く思いました。

寄贈していただきました

高鍋藩に関わる図書をいただきました。

「明倫堂文庫を学ぶ会」から、4月27日(木)に、読み下し「旧記抜書」(高鍋藩秋月種茂時代の用人日記)を3冊寄贈していただきました。図書室を中心に有効に活用させていただきます。



竹ぼうきをいただきました。

高鍋舞鶴ライオンズクラブから、4月27日(木)に町内の4小・中学校に、竹ぼうき(20本)を寄贈していただきました。校内の環境美化と生徒の心を磨くために有効に活用させていただきます。本当にありがとうございました。